入試年度	2024	入試方式	一般（春季）	課程	博士前期
研究科	発達教育学	専攻	心理学	領域（分野）	心理学

出題のねらい

入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「心理学に関する総合的な専門的知識あるいは技能の有無について精査する」ことを目的とするが、特に外国語の筆記試験では以下の各点について評価を行うことを目的とする。

まず、心理学で最も多く出版されている英語文献を読みこなすことにつながる基本的な英語の語学力を有しているかどうかを評価する。そのため、英語の問題では、短めの心理学に関する問題文を読んでもらい、日本語に訳すことを求めている。問題文全体を読んで、全体を理解した上で訳しているかを見ることにより、基礎的な語学力を評価する。

また、外国語の筆記試験では、英語力だけではなく、研究に必要な日本語の能力、論理的能力を評価することも目的とする。この問題では、特に訳の日本語の正確さ、適切さ、および問題文全体の論旨を捉えた訳ができているかを見て、これらの能力の有無を評価する。

さらに、心理学的なものの見方、考え方を備えているか、心理学の方法論について一定の理解をしているか、心理学の基本的な概念についての理解が十分であるか、などについても評価する。これらについても上で述べたのと同様に問題文全体の意味が通るような形で訳ががができているかどうかから評価する。

解答・解答例または採点時の評価ポイント

上記の狙いに沿った評価を行う。具体的な評価のポイントは以下の通りである。

①どれだけの量を訳せているか。修士論文の作成などではある程度の分量の英語文献を読みこなす必要があるが、ここでは短時間である程度の量の英文を読み、訳出することができるかが評価される。【１】は問題文の全訳であるため、訳出した量の比率に応じた採点が行われる。【２】は後半のかなりの部分の部分訳であるが、【１】と同様の採点が行われるほか、文脈を設定している冒頭部分を把握した上での訳となっているかも評価の対象となる。

②細かい部分の訳が正確かどうかより、全体が英文の主旨を適切に伝えられる日本語になっているかどうかが問われる。ある程度の意訳であっても構わないが、各文の主旨をもれなく訳しているかが問われる。

③了問題とも、いくつかの専門的な用語が含まれているが、基本的には通常当てられる訳語が用いられていることが高評価につながる。一般的な訳語がわからない場合も、内容を理解して、心理学の用語として相応しい訳語が選べるかどうかは、評価の対象となる。

④【１】は観察方に関する方法論的な議論であることを踏まえ、その利点、欠点、種類などが述べられ得ていることを押さえた上での役となっているかどうかが問われる。【２】は実証研究の簡単な紹介であることを理解した上で、研究の目的や独立・従属変数、主要な結果とその解釈などが適切に記されているかどうかが評価の観点となる。